



日本画専攻制作風景



デザイン専攻制作風景



陶磁専攻制作風景

CERAMIC LIFE DESIGN AWARD 2020 入賞入選作品展
展示風景(芸術資料館内)

芸術資料館(学内展示施設)外観

2019年に新設された
デザイン棟※国立五芸大
東京藝術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学、沖縄県立芸術大学の5つ。

るクリエイターの育成を目指し、デザイン・工芸科内にメディア映像専攻が新設される。メディア映像の対象は「アートアニメーション」「VFX・ARコンテンツ」「メディア映像表現」「メディア企画」「コマースシャル映像」「メディアアート」「デジタルアーカイブ」「メディア映像文化研究」と多岐にわたる。

コロナ禍に対しては、感染制御学・ウイルス学を専門とする愛知県立大

学看護学部の清水宣明教授の指導のもと、早期に感染対策を実施。飛沫感染だけでなく、空気中に飛散したウイルスによるエアロゾル感染にも着目し、室内の換気状況を調査するスモークテストをおこなった。各教室にサーキュレーターや工業用扇風機等を設置し、学習環境の整備にも積極的に取り組んでいる。時代の変化に柔軟な愛知芸大から生まれる、比類ない個性と可能性に期待したい。

国

公立五芸大※の一翼を担う愛知県立芸術大学(愛知芸大)は今年、創立から56年目を迎えた。キャンパスは吉村順三の設計による象徴的な講義棟を中心に、西は美術学部、東は音楽学部に分かれる。講義棟の北面は片岡珠子が手がけたタイル壁画に彩られ、その下には初代学長の上野直昭氏が残した造語「直指天」が刻まれている。これは禅の悟道を示した仏語「直指人心見性成佛」から引用されたもの。上野氏はこの語に「この山に入るものに、先ず人界を忘れることをすすめる。人間界を去ることを求める。仙境の空気を吸って、仙人とはなれないにしても、せめて天を仰ぐことを忘れるな。」という言葉添えている。森に囲まれた41ヘクタールにもお

よぶ広大なキャンパスは同学の特徴の一つといえるだろう。講義棟の他にも、折板構造の屋根が架かる音楽堂や、梁の内側に空調設備を隠した図書館など、見所のある建築物を有する。2019年には、激変するデザイン分野の環境に対応するため、新たなデザイン棟を施工。また、愛知芸大の研究や教育成果を広く公開し、地域と共に愛知の芸術・文化の発展を目指す場として、サテライトギャラリーISA・KURAを名古屋市東区に開廊した。

愛知芸大の美術学部は現在、日本画専攻、油画専攻、彫刻専攻、芸術学専攻を擁する美術科と、デザイン専攻、陶磁専攻を擁するデザイン・工芸科の二つに分かれている。2022年4月には、新たなイメージを社会に提示す

Aichi University
of the Arts

大きな自然の中で育まれる
芯の通った自分らしさ